

# Bosnia

「戦争になったら、みんなが敗者だ！」

ハリルホジッチ・ベレジユ・モスタル監督（当時）は叫び、モスタルの

自宅庭で 銃撃された。

ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争終結から 20 年  
立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科・社会デザイン研究所は、公開シンポジウム  
「ボスニア・ヘルツェゴビナは今～デイトン和平合意・スレブレニツァから 20 年」  
を開催します。

**12月4日(金)18:30-21:00**  
**立教大学池袋キャンパス,11号館 AB01 教室**

パネリスト：柴 宜弘（城西国際大学特任教授・東京大学名誉教授）  
：木村元彦（ノンフィクション作家、ビデオ・ジャーナリスト）  
：橋本敬市（国際協力機構（JICA）国際協力専門員・平和構築担当）  
：吉楽 祿（NHK 報道局社会番組部ディレクター）

兼司会：長 有紀枝（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科・社会学部教授）

対象：21 世紀社会デザイン研究科学生，本学学生，教職員，校友，一般市民

問合せ先：21 世紀社会デザイン研究科委員長室 TEL 03-3985-2181（月～金）11:00～18:00

主催：立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科・社会デザイン研究所

協力：特定非営利活動法人難民を助ける会 (AAR Japan)

# Bosnia

ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争  
終結から 20 年  
公開シンポジウム  
ボスニア・ヘルツェゴビナは今  
～デイトン和平合意・  
スレブレニツァから 20 年

**12月4日(金)18:30-21:00**  
**立教大学池袋キャンパス, 11号館 AB01 教室**

- パネリスト：柴 宜弘 (城西国際大学特任教授・東京大学名誉教授)  
：木村元彦 (ノンフィクション作家、ビデオ・ジャーナリスト)  
：橋本敬市 (国際協力機構 (JICA) 国際協力専門員・平和構築担当)  
：吉楽 祿 (NHK 報道局社会番組部ディレクター)

兼 司会：長 有紀枝 (立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科・社会学部教授)

対象：21 世紀社会デザイン研究科学生，本学学生，教職員，校友，一般市民

問合せ先：21 世紀社会デザイン研究科委員長室 TEL 03-3985-2181 (月～金) 11:00 ~ 18:00

主催：立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科・社会デザイン研究所

協力：特定非営利活動法人難民を助ける会 (AAR Japan)

終戦から 70 年を迎えた今年は、第二次世界大戦後、欧州最大の紛争とされるボスニア・ヘルツェゴビナの紛争終結と、ボスニア紛争末期にスレブレニツァで発生したジェノサイド（集団殺害）から 20 年の節目にあたる年でもあります。

当初内戦として始まり、次第に国際的武力紛争に発展したボスニア紛争は、1992 年の勃発以来 3 年半の間に、戦前の人口 440 万人の内、人口の 5 % を超える約 25 万人が死亡、180 万人が難民・国内避難民となり、行方不明者数千名といわれる凄惨を極めた紛争です。また紛争末期、国連の安全地帯に指定され、国連 PKO のオランダ部隊によって防御されていた人口 4 万あまりの小都市スレブレニツァでは、セルビア人勢力の攻撃により、7 月 11 日の陥落以来約 10 日間に、ムスリム人男性約 7500 名が行方不明となり、その多くが処刑される事件が発生しました。国際刑事裁判においてルワンダに続き、史上 2 例目のジェノサイド判決がでた事件です。

本シンポジウムは、スレブレニツァ・ジェノサイドと、ボスニア紛争を終結に導いたデイトン和平合意から 20 年のボスニア・ヘルツェゴビナの現在を、①バルカン研究の第一人者である歴史学者と、②旧ユーゴやボスニアのサッカー協会の統一と分裂を追ってきたノンフィクション作家、③ボスニアの帰還民の自立支援や平和構築プログラムに JICA の立場から関わってきた専門家、④スレブレニツァ 20 周年を取材しドキュメンタリー番組を制作したジャーナリスト、⑤スレブレニツァ・ジェノサイド発生時、NGO 職員として現地におり、その後研究者としてそのメカニズムの解明と国際司法による裁きを研究してきた本学教員の目から分析し、複合国家ユーゴスラヴィアの「縮図」といわれた多民族の共存社会でありながら、現代史に名を刻んだ凄惨な紛争を経験した社会の、移行期をめぐる課題、和解や共生がいかなる道を進んでいるのか、EU 加盟問題の影響も含め、明らかにしようとするものです。



出典：『スレブレニツァ』  
p209, 長有紀枝著、東信堂、  
2009 年

### <パネリスト略歴>

柴 宜弘（しば・のぶひろ）：城西国際大学特任教授・東京大学名誉教授

1946 年東京生まれ。早稲田大学大学院文学研究科西洋史学博士課程修了。

1975～77 年、ベオグラード大学哲学部歴史学科留学。敬愛大学経済学部、東京大学教養学部を経て、1994 年東京大学大学院総合文化研究科教授（2010 年退官）。

専攻は東欧地域研究、バルカン現代史。主な著書に『バルカンの民族主義』（山川出版社 1996 年）、『ユーゴスラヴィア現代史』（岩波新書 1996 年）、『新装版 図説 バルカンの歴史』（河出書房新社 2015 年）など。他に共著、編著、論文多数。

木村 元彦（きむら・ゆきひこ）：ノンフィクション作家

1962 年愛知県生まれ。主な著書に、サッカーと旧ユーゴスラヴィア情勢を織り交ぜた 3 部作『誇り ドラゴン・ストイコピッチの軌跡』（東京新聞出版社 1998 年）、『悪者見参 ユーゴスラヴィアサッカー戦記』（集英社 2000 年）、『オシムの言葉』（集英社 2005 年）。他に『終わらぬ「民族浄化」セルビア・モンテネグロ』（集英社 2005 年）、インタビュー・解説に明石康『「独裁者」との交渉術』（集英社 2010 年）、サッカーボスニア代表を描いた「オシム 終わりなき闘い」（NHK 出版 2015 年）などがある。ビデオ・ジャーナリストとして 2014 年 NHK ドキュメンタリー「オシム 73 歳の闘い」「民族共存へのキックオフ」でボスニアを取材。

橋本 敬市（はしもと・けいいち）：国際協力機構（JICA）国際協力専門員・平和構築担当

1960 年大阪府生まれ。大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了（国際公共政策博士）。新聞記者、在オーストリア日本大使館専門調査員、上級代表事務所(OHR)政治顧問を経て、2002 年より現職。主要著作に『紛争と復興支援 平和構築に向けた国際社会の対応』（分担執筆、有斐閣 2004 年）、『ボスニア・ヘルツェゴヴィナにおける和平プロセス—国際社会による強権的介入』（『国際問題』2003 年 7 月）など。

吉楽 祿（きらく・さち）：NHK 報道局社会番組部ディレクター

1982 年新潟県生まれ。一橋大学大学院法学研究科修了。2006 年 NHK 入局。広島局報道番組部を経て現職。2015 年 7 月放送の NHK ドキュメンタリー「NEXT 未来のために『虐殺の町で生きる～スレブレニツァ 母たちの 20 年』」担当ディレクター。核・戦争、東日本大震災、子どもの人権などのテーマを中心に番組を制作。

長 有紀枝（おさ・ゆきえ）：立教大学 21 世紀社会デザイン研究科・社会学部教授

1963 年東京に生まれ、茨城県で育つ。東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程修了。1991 年より 2003 年まで国際協力 NGO 難民を助ける会（AAR）勤務。ボスニア紛争時、駐在員として難民・避難民支援に従事。2008 年より AAR 理事長。2009 年に立教大学着任、2010 年より現職。著書に『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』（東信堂 2009 年）、「スレブレニツァで何が起きたか」、石田勇治・武内進一編『ジェノサイドと現代世界』所収（勉誠出版 2011 年）など。